



令和6年6月17日

研修だより 17号

## 袋井型授業の上にある授業

小笠原康晃

袋井型授業の実践、ありがとうございます。

本校の研修でも取り扱っている「かるまふ」を意識し、授業を進めていただいております、本当に嬉しいです。

「袋井型は基本形であるため、その次のステップを考えてみよう。」という話も、以前話題にあがりました。

袋井型を徹底することで、授業の導入部分や途中部分を工夫できます。

先日、4年1組の理科「電流のはたらき」の学習で導入部分の工夫を試してみました。

その方法は「自由試行」という方法です。

私が導入の工夫について、調べていく中で見つけた方法です。

活動から学習に繋がる方法でした。

最初に2～2.5時間の授業を使い、学習で使う実験セットの準備をしました。

電池でプロペラのついたモーターを動かします。

そのために、実践セットを組み立てました。

いざ、乾電池を入れます。

すると、モーターの先についたプロペラが回ります。

「すずしい～」

と、プロペラから出る風で涼む子がいます。

その一方で、

「あれ、風がこない。」

と言っている子もいます。

さあ、大変です。

子どもたちは自分も友達と同じように、涼みたいと思っています。

「どうすればいいんだ。」

「プロペラの向きが反対だ。」

「なんで反対なのかな。」